

農業の新しい技術

No. 693(平成27年5月)

分類コード 02-09

熊本県農林水産部

施設栽培におけるヒリュウ台「肥の豊」の 早期樹冠拡大のための枝梢管理法

農業研究センター 果樹研究所常緑果樹研究室
担当者：川端義実

研究のねらい

加温栽培のヒリュウ台「肥の豊」は、従来のカラタチ台「不知火」に比べ、減酸が早く高品質果実が生産されやすいことから、県内で栽培面積が増加しつつあるが、仕立て法が確立されていない。

そこで、施設栽培における未結果期の樹冠拡大を早期に図るための枝梢管理法を確立する。

研究の成果

1. 1年生樹の仕立て法は、主幹から発生した新梢を先端付近の4本のみを残して主枝候補枝とし、それを8葉程度展葉した後に外芽で摘心する。さらに、その先端から発生する新梢を1本残して他を芽かきして、8葉程度で摘心する作業を繰り返す(図1のD区)。
2. 1年生樹の主幹から発生させる新梢本数は、5本や6本と比べ、4本が最も長大な主枝候補枝が得られる(表1)。
3. 1年生樹での亜主枝候補枝の育成は、主枝より基部が太くなるので好ましくない(図1、表2)。
4. 主枝長が1m程度伸長した2年生樹(図1のD区)では、翌春、主枝から発生する新梢(亜主枝候補)を4本残して他を芽かきした樹が、新梢の発生が多く樹冠容積も大きくなる(表3)。

以上のことから、1年生樹では、先端付近の春梢を主枝候補枝として4本残して他を芽かきし、8葉程度展葉した後に外芽で摘心する。その後に発生する新梢は、各先端の1本のみを残して8葉程度で摘心し、これを繰り返して伸長を促す。2年生樹では、主枝を3本にし、それから発生する春梢を15cm程度の間隔で4本残して他を芽かきすることで早期に樹冠が拡大する。

普及上の留意点

1. 本成果は、無加温施設で育成しながら3本主枝に仕立てる方法で、3年目の初着果に向けた1～2年目の管理技術である。
2. 新梢の伸長は、新梢長が1～2cmで芽かきし、摘心は8葉程度展葉した後に実施すると効果が高い。
3. 1年生苗は、主枝候補枝の伸長に伴い枝が倒れ易くなるので、下垂しないように支柱を立て誘引する。
4. 2年生樹での摘心は8葉程度で2回までとし、それ以降に発生する新梢では摘心を行わない。また、主枝・亜主枝候補との競合枝、内向枝、立ち枝および1節から複数発生している新梢は芽かき・剪除する。

表1 1年生樹における主枝候補枝の本数の違いによる主枝長への影響(2012)

処理区	主枝候補枝の長さ(cm)						長い主枝3本 (①~③) の平均長(cm)
	主枝①	主枝②	主枝③	主枝④	主枝⑤	主枝⑥	
主枝候補4本	101.3	90.0	80.5	43.0	-	-	90.6
主枝候補5本	89.8	83.8	77.5	69.8	57.0	-	83.7
主枝候補6本	95.5	81.3	72.0	61.3	52.3	42.8	82.9

注1)3月に春梢を4、5、6本残して芽かき・摘心し、その後に発生した新梢は先端1本残して芽かき・摘心した

注2)主枝①②③④⑤⑥は長い順に並べた

表2 1年生樹における亜主枝候補枝の設定時期が樹の生育に及ぼす影響(2012)

処理区	樹幅	樹高	樹冠 容積	分岐部の基部径		
				主枝側	亜主枝側	比率
				(a)	(b)	(b/a×100)
	m	m	m ³	mm	mm	%
A:3回目新梢亜主枝候補	0.94	1.09	0.33	8.0	8.2	102
B:4回目新梢亜主枝候補	0.86	1.12	0.29	8.0	8.5	106
C:5回目新梢亜主枝候補	0.83	1.22	0.29	7.7	7.5	98
D:亜主枝候補設定無	0.81	1.30	0.30	-	-	-

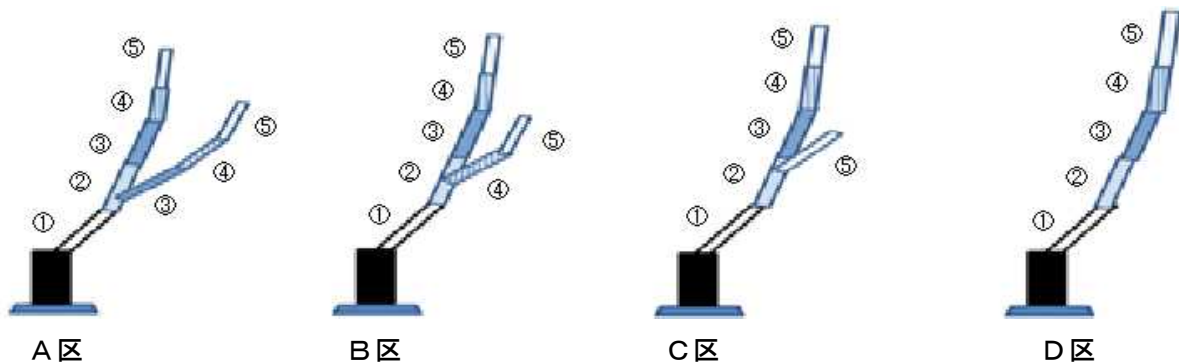


図1 1年生樹における主枝・亜主枝候補枝の設定方法

注1) ①、②、③、④、⑤は新梢の発生順

表3 2年生樹における主枝から発生する新梢本数の違いによる樹の生育への影響

処理区	2012年12月5日(①)			2013年11月29日(②)			拡大量(②-①)			11月29日 亜主枝長
	樹幅	樹高	樹容積	樹幅	樹高	樹容積	樹幅	樹高	樹容積	
	m	m	m ³	m	m	m ³	m	m	m ³	cm
春梢2本	0.80	1.18	0.53	1.60	1.52	2.75	0.80	0.33	2.22	113
春梢4本	0.79	1.27	0.56	1.61	1.63	2.96	0.82	0.37	2.40	101
無処理	0.85	1.18	0.60	1.54	1.72	2.86	0.69	0.53	2.26	57

注1)2013年3月に3本の主枝から発生した春梢を芽かきし、春梢本数が異なる処理区を設けた

注2)無処理区は主枝から発生した春梢を1節当たり1本に芽かきし、発生した節のものは全て残した

注3)亜主枝長は、地表面から50cm程度の高さで、主幹の分岐部から20cm程度の位置より発生している枝の長さ